

研究者のアウトリーチ活動はなぜ報われないか？

Why do professional scientists not obtain good evaluation for their outreach activities ?

\*植木 岳雪<sup>1</sup>

\*Takeyuki Ueki<sup>1</sup>

1.千葉科学大学危機管理学部

1.Faculty of Risk and Crisis Management, Chiba Institute of Science

科学研究の成果の社会還元のために、研究者のアウトリーチの必要性が言われて久しい。アウトリーチ活動に対する個人の向き不向きはさておき、研究者が一般市民や児童・生徒に対して講演、実験、野外観察会、サイエンスカフェなどのアウトリーチ活動を行うことについては、現在、ほとんどの研究者は意義を認めているだろう。それに反して、研究者がアウトリーチ活動をしても多くの場合は評価されず、少数の研究者にアウトリーチ活動が集中しているように見える。その原因は、研究者のアウトリーチ活動の評価軸が定まっていないためと思われる。研究者は論文（場合によっては特許も）の数、質で評価されるが、アウトリーチ活動は論文になりにくいのである。研究者のアウトリーチ活動の充実のためには、アウトリーチ活動を論文化できるスキームが必要であり、ここではアウトリーチジャーナルを提案する。それは、学校教育の各教科・科目、生涯学習、野外教育、科学コミュニケーション、防災・安全、ジオパーク、自然保護など、多様な分野で行われているアウトリーチ活動を横断的にすべて包含するものである。

キーワード：アウトリーチ、評価、ジャーナル

Keywords: Outreach, Evaluation, Journal